

おつき・ふくしの花だより

第14号

平成29年1月1日

【発行】

大月地区社会福祉協議会

会長 小宮 文男

●今号のMenu●

表紙～P2 ▶赤い羽根共同募金運動

～大月東小学校3年生との植栽活動

P3 ▶おおつきりレー放談

P4 ▶報告



▲H28.10.20 大月東小学校6年生の児童との植栽活動

昨年の活動を振り返って

大月地区社会福祉協議会 会長 小宮 文男

あけましておめでとうございます。

昨年は、地区社会福祉協議会事業にご支援・ご協力を頂きましてありがとうございました。

さて、その昨年は地区社協事業が充実してきたことから、地区社協活動の自主財源確保のため、会員の皆様のご理解をいただきまして、各世帯100円の活動費を頂くことができました。このことは、大月地区社協が平成22年に発足した時からの課題でありましたが、毎年、県や市の短期助成事業などを活用して事業を進め、一定の実績を積めたことで皆様にお願ひしたものであります。大変なご尽力をいただきました歴代の会長さんをはじめとする役員の皆様、そして会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

地域の力が大事になってきている昨今、地区社協の活動も益々重要になってきております。より一層、地域のニーズに則した事業の展開を図れるよう努めてまいりたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

昨年が、会員の皆様にとって、素晴らしい年であったことに思いを致しますと共に、今年も益々お健やかにご活躍できます年になることをご祈念申し上げご報告とさせていただきます。

赤い羽根共同募金運動に係る植栽活動 を実施しました！！

本年度も、地域の皆さんと児童が交流をしながら、共同募金の更なる理解を深めていけるよう、10月20日（金）大月東小学校校庭において、児童（3年生）38名と地域の皆様の参加により、植栽活動を行いました。

当日は、児童と地域の方々がペアになり、仲良くお話ししながら作業を行い、出来あがったプランターは、地区役員が同日午後に、街の協力店に配布しました。

また、当日使用するプランターには、大月東小の3年生と6年生、飼育栽培委員会の児童が、それぞれの想いを書いて用意してくれました。このことが、より一層、町を明るく・元気にしていると好評です。

是非、皆さんも注目して見て下さい！！



きれいにできたよ～！



大月東小3年生の児童と地域のみなんで 交流を深めながら楽しく作業しました！



「私の大切な仲間たち」 矢羽 正子

出会いは不思議なものです。大学を卒業する際、学長先生から「一隅を照らす人になりましょう」と『静』の色紙を贈られた私は、生涯を通し家庭を守り、いくつかの趣味に親しんで生きていこうと考えていたのです。ところが保育園の経営の仕事に出会い以降前向きにひたむきにお子さん達の保育を通して働くお母様方を支える毎日が続けて今年50年を迎えることが出来ました。多くの保護者の皆様、立派に成長された卒園児さんたちの情報がどこにいても聞かれる様になり、保育園との出会いに感謝しています。

昭和61年かいじ国体都留市会場開始式にマーチングバンドを担当させていただきました。小さな子ども達が演奏する大きなエレクトーンやマリimba、ドラムセット、カラーガード隊が会場一杯にはなやかな演技を披露して開始式を盛り上げることが出来ました。

その時、出会いはとても大事なこと。良い出会いを見逃すことのない配慮が必要と思ったのです。32年前に、北野まさる氏の講演で二酸化炭素発生量増加により地球に届く有害紫外線をカットしているオゾン層が破壊され健康被害が深刻。また山に広葉樹の森を育てることが流域の人々の暮らしを守るという雑誌の記事から山に広葉樹の森を作ろうと考えたのです。一人の力は微力ですが、その時出会った人達がそれぞれの力を集結して人のネットワークが、荒れ果てて足を踏み入れることも出来ない森を整備して第一歩は森に人が集まれるようになり、都留文科大学環境コミュニティ創造との出会いから森の活動が始まったのです。初めて森に出かけた日、バスから降りた子ども達は森までは坂を上がっていくことを知り「疲れるよ」とダラダラと登っていたのですが、そんな姿を見たのはその時が最後で、森の魅力にとりつかれた子ども達は到着すると小鳥のように森へと登っていくのです。大人もまた森の活動の魅力を感じてくださる方が少しずつ増えています。今は一通のお手紙でたくさんの方が集まり、作業や、活動に森で流れる時をいとおしんでくださっています。

子ども達の環境を手作りの温かい布の作品で彩りたいと和裁のボランティア「グランマ・キルト・クラブ」を立ち上げました。お孫さんを保育園に通わせていらっしやる祖母の皆さんで結成し、最初にハワイアンキルトの作品を作りあげました。作品は素敵に出来上がりましたが、口を出る言葉は「これで解散ですか。」シュタイナーのウォルドルフ人形や小さなお子さんが使うポアポアマリアちゃん、環境は布の温かい作品で素敵に構成されています。会員の皆さんは技術の向上と友情も温かくはぐくみ、一年の大半を園児さん達へクリスマスプレゼント作りに時間を提供しています。

森の仲間達、グランマ・キルト・クラブの皆様、そして今もう一つの仲間の輪を広げています。それは学生生活の7年間、山梨を留守にしていた間に湧水が荒れて姿を消した蛍の復活のため、美しい湧水を取り戻す市民活動です。素敵な仲間が一人また一人と集まってくださり、いつの日か湧水と蛍が復活する日を夢見ています。



○次回予告！矢羽さんからのご指名により星野富子さんを予定しております。ご期待ください！

大つき～地域はぐくみ待^{た～い}

沢井地区のサロンさわい（代表 山口英子氏）では、毎月、11時45分頃になると、おいしそ～な昼食が運ばれてきます。サロン発足当初から、手作りでの昼食を楽しんでいただいているそうです。

これが継続できるのは、「区会の協力と地域の若い力の協力があるからです。」と代表の山口さんはお話してくれました。

調理をしてくれているのは、地域の小幡裕美さん（写真左）と小宮智子さん（写真右）のお二人とサポートする小俣周子さんです。小幡さんと小宮さんは、代表の山口さんに声を掛けていただき、主婦業の方も大分落ち着いてきたことから、参加・協力しているそうで、ボランティアなんていう感覚はないとお話してくれました。あくまでも、地域の一員として、出来ることをしているという、自然な想いが伝わってきました。

メニューは、季節感があるものを大切に、創意工夫をして安価で済むようにしているそうです。「毎月のことで大変ですね」という問いには、「最近は何にするか企画することが楽しいんです。」という答えが返ってきました。ここに、継続できる意義が含まれていると強く感じました。

最後に、二人は口をそろえ、「毎回楽しみにしていると参加者の皆さんに言っていただけで、すごく励みになるとともに、役に立つこともあると感じています。自分達も毎回楽しみにしています。」と笑顔で話してくれました。

今回はサロン活動に係る方を紹介させていただきましたが、大月地区全体で様々な地域活動に参加する若い世代がもっと増えていくことを願っています。

地域でちょっとした活動のお手伝い(ボランティア)をしている方を紹介します!



▲二人で楽しく相談しながら～メニューを決めています！



▲毎回、素敵な昼食が用意されます
(12月は別双会でした♪)

編集後記

大月地区社協広報発行へのご協力、たいへんありがとうございます。今年も多くの諸事業を計画、実施させていただきましたことに、心から感謝申し上げます、

特に今年は、小学校の統合ということで、10月に実施致しました、「プランターづくり」(大月東小学校と賑岡・真木・大月三地区社協合同)も、昨年までにない多くの関係者の方々に、ご協力・ご支援をいただきましたこと、ありがとうございました。

今までもそうですが、今年のメッセージの書き方は、子どもたちが本当に真剣に書いてくれた、そんな思いに溢れているように見えるプランターが、街中でより一層引き立っているようでした。

私達地区社協の役員も、なお一層活動に創意工夫をしていかなければならないことを、教えられた気がいたします。

多くの皆様のご協力・ご指導・ご支援いただきましたことに心から感謝申し上げます、誠にありがとうございました。又、年が改まりまして、新しい気持ちで活動に取り組んでいきたいと思っております。今年もどうぞ宜しくお願い致します。
(文責、副会長・小俣公司)